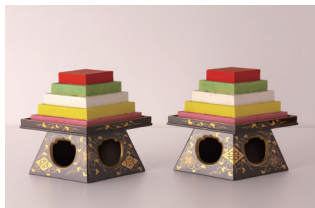


岩崎家の お雛さま

静嘉堂文庫美術館



写真／岩崎家雛人形のうち 内裏雛・三人官女・五人囃子・菱台（すべて五世大木平藏製、昭和初期）

見る者の心を奪う幼児姿

東京都世田谷区岡本には、都内とは思えないほど貴重な自然が残っている。三菱創業家の岩崎家が所有していた敷地内に建つのが静嘉堂文庫美術館だ。三菱第二代社長の岩崎彌之助と、その息子である三菱第四代社長の小彌太が蒐集した品を収蔵・展示している。

同館では2月20日(土)～3月28日(日)の間、「岩崎家のお雛さま」展を開催。小彌太が孝子夫人のために、京人形の老舗・丸平大木人形店に作らせた雛人形と雛道具を展示。15体ある人形は戦後、散逸してしまっただが、桐村喜世美氏がすべて蒐集し、2018年に静嘉堂に寄贈した。

「名店と言われる人形店に特注して作らせたというのだからかなりの名品。近代の人形製作技術の高さを示す雛人形でもある」と学芸員・浦木賢治氏は話す。

夫妻は、「他にはない人形」を作るといふと製作を依頼。完成まで約三年の月日を費やしたそうだ。桃の節句の季節になると、東京・麻布にあった鳥居坂本邸の大広間に飾られ、夫妻をはじめ、多くの人が愛でた。

岩崎家の内裏雛は白く丸いお顔の稚児雛。この頭は、名人十二世面屋庄次郎の木彫り一品物だ。観覧者は

腰を落として人形と同じ目線になり、食い入るように見ていた。

岩崎家のお雛さまが、世田谷区岡本の地で展示されるのは今回が最後。来年、同館の展示ギャラリーは丸の内に移転する。そこでも再び、「岩崎家のお雛さま」を楽しめるように期待したい。

静嘉堂文庫美術館 展示ギャラリー移転

2022（令和4）年に開館30周年を迎える静嘉堂文庫美術館。東京丸の内明治生命館1階に、美術館の展示ギャラリーを移転する。美術品の保管管理・研究閲覧業務、並びに静嘉堂文庫（書庫）、敷地、庭園の管理業務は現在の地（世田谷区岡本）で継続する。

静嘉堂文庫美術館

会館時間／10時～16時30分（最終入館16時まで）
休館日／毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）
※展覧会期間以外は休館、常設展はなし
入館料／一般1,000円、大高生700円、中学生以下無料

●住所

〒157-0076

東京都世田谷区岡本2-23-1

☎050-5541-8600（ハローダイヤル）

●アクセス

東急大井町線／田園都市線

二子玉川駅下車、徒歩約20分

